

## アニメ文化大使「ドラえもん・のび太の恐竜2006」上映会の実施



アニメ大使就任時の様子（高村外務大臣（当時）と共に）

1. 日時：2008年10月10日（金）、11月11日（火）
2. 場所：コミュニケーション・ドゥ・キンシャサ国立劇場（キンシャサ市内）
3. 参加者：小学校の生徒ら延べ約700名
4. 上映会の模様：会場近くの小学校の生徒の参加を得ることが出来、2回とも立ち見が出るほどの超満員の盛況ぶりでした。滑稽なシーンでは、笑いが巻き起こり、悲しいシーンでは水を打ったような静けさで、子供たちがアニメに熱中している様子がまざまざと感じ取れる上映会だったと思います。  
また、アンケートを実施したところ、上映作品について「楽しかった」、「素晴らしかった」等、肯定的な感想が多数寄せられました。中でも、「景色の描写が写実的で色鮮やか」等、アニメ映像そのものの美しさを高く評価するコメントが多かったのが印象的です。

また、ドラえもんとのび太をはじめとする仲間たちが力を合わせて困難に立ち向かう姿について、「日本人は他人を尊重する」「礼儀正しい」といったコメントも多数寄せられました。

その他、我々日本人にとって、のび太一家の住む町はごく普通の街並みですが、発展途上国であるこの国の子供たちからは、「家が綺麗」、「生活が豊か」「近代的」等の感想が多く寄せられ、経済協力を通じて、コンゴ（民）の発展に貢献する立場にもある我々大使館員としては、日本人にとって「普通の生活」が如何に実現することが難しいか、再認識させられました。



会場内で上映作品を鑑賞する子供たち

5. まとめ：長年に亘り紛争に苦しんできた当国においては、文化活動が一般的に低調で、普段、日本文化に触れる機会も少ないことから、今回の上映会は、マスメディアにおいても非常に大きな反響を呼びました。

実際、当館が把握しているだけでも、当地有力紙4紙(L'Observateur、Le Phare、Le Référence Plus、ACP) が計6回にわたり本件映画上映会につき大々的に報道しました。このような熱心な報道振りからしましても、今回の上映会は好評を博し、日本文化の一端をコンゴ（民）の人々に広く紹介する上で、非常に有意義であったのではないかと思います。